



# 数字で見るオリンピック。

“世界平和”を究極の目的とした4年に1度のスポーツの祭典、オリンピック。しかし放映権、スポンサーシップ料という側面から切れば、ひとつの巨大極まりないビジネスモデルであることも広く知られている。そんなオリンピックを支える数字たちを紐解いてみる。

イラスト:TOKUMA (bowlgraphics) 文:並木裕太 編集:萩原祥吾

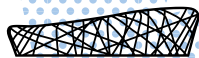
## OLYMPICS IN NUMBERS

### 開会式のテレビ視聴者数

前回の北京は約6億人が視聴、ロンドンには10億人ともいわれている。



2012  
ロンドン



5億 9300万人

2008  
北京

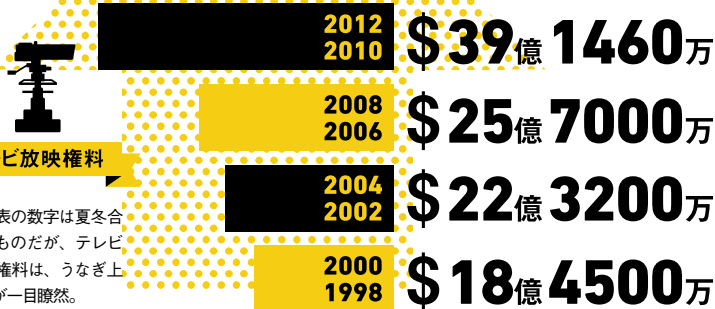


1億 2700万人

2004  
アテネ

### テレビ放映権料

IOC発表の数字は夏冬合算したものだが、テレビの放映権料は、うなぎ上りなのが一目瞭然。



### 開催国スポンサーシップ・プログラム

IOCのみならず開催国に落ちるスポンサーシップ料も北京では桁違いに。

2008  
北京

利益

\$12億 1800万

2004  
アテネ

\$3億 200万

2000  
シドニー

\$4億 9200万

1996  
アトランタ

\$4億 2600万



### マクドナルド売り上げ

“公式レストラン”だけに、五輪関連施設での独占販売で驚異の売り上げ!

125万  
セット

2008  
北京

175万  
セット(予想)

2012  
ロンドン



1996  
アトランタ



2008  
北京

### オリンピックのテレビ中継国数

増加の一途をたどるテレビ中継国数。ロンドンは230近い数になるとの予測。



1976  
モントリオール



1984  
ロサンゼルス



1948  
ロンドン



1964  
東京

### 五輪期間中の宿泊料金(1泊料金)

高級ホテルだけでなく、安宿街のアールズコートでも値上げの傾向は顕著。

シェルトン・パーク・タワー (ナイツブリッジ)

£209 → £605

ベルジャラ・ホテル (ケンジントン)

£89~£199 → £999

ユースホステル (アールズコート)

£15.65 → £30.65

## “世界平和”? それともビジネスチャンス?

オリンピックが“世界最大のスポーツイベント”といわれる背景には、鍵となる3つの数字がある。視聴者数、放映権料そしてスポンサーシップ料だ。視聴者数に関しては、世界中で開会式をテレビで観る視聴者数とその規模を物語る。北京五輪では、約6億人がライブで観たといわれ、ロンドン五輪は10億人近くの人がテレビに釘付けになると予想されている。

この世界最大級の視聴者数を抱える結果、発生するのが世界最大級の放映権料だ。我々がテレビで観るすべての競技映像は、国際オリンピック委員会(IOC)によって作成され、各国のテレビ局に販売されている。オリンピックの中継国数が順調に伸びをみせるなか、IOCが手にする放映権料も跳ね上がり、2010/12年には、約40億ドル(約3200億円)と発表されている。

そして最後の“世界最大級”の数字が、スポンサーシップ料。スポンサーシップの建前は、企業としてオリンピックの精神である「世界平和」に賛同するというも

の。しかし本音は、世界中に放映されるオリンピック映像に、自社の広告を入れるためだ。その合計は、北京五輪では、開催国スポンサーシップが12億ドル(約970億円)、国際スポンサーシップは約10億ドル(約800億円)と発表されている。

しかしスポンサー企業だってしぶとい。五輪のオフィシャルパートナーであるマクドナルドは、ロンドンオリンピック期間中、オリンピック関連施設内の自店舗で、175万個ものハンバーガーを販売する予想という。

Peace to the world with Burgers!